

イントロダクション： 教会とは、私たちの主によるすばらしい創造物である。それは敵からの攻撃に対抗するため建てられ、どんな呪いもそれを打ち破ることはできない。しかしアメリカの諸教会は異常な速さでその門戸を閉じている。それはなぜなのか？ 単純に答えは出せないかもしれないが、健康に成長していきたいとがんばっている教会に対して一つ警告しなければならないことは、「罪」である。あまりにも多くの教会が罪の深刻さ、そして罪がどれほど聖霊を悲しませるか、ということを見過ごしている。私は教会が閉鎖してしまう最大の理由は罪にあると思う。最終的に教会の脅威となるものは外の敵ではなく、内側に入れてしまう敵が教会を破滅に至らせるのである。現代の教会における無言の殺人者は性的不品行である。それが暗黙である理由は、講壇から話されることがない、その話題自体がいろんな意味でタブーである、会衆もそれに触れる必要はないと思っている、などである。

1. あなたがたのからだはキリストのからだの一部であることを、知らないのですか。キリストのからだを取って遊女のからだとするのですか。そんなことは絶対に許されません。遊女と交われば、一つからだになることを知らないのですか。「ふたりの者は一心同体となる。」と言われているからです。しかし、主と交われば、一つ霊となるのです。(6:15-17)
 - a. 性的罪がまん延した町に定住したコリントの教会が抱えた大きな問題は、その土地の悪い慣習を取り入れてしまったことにある。これはどんな教会も、特に新しい教会にとって陥りやすい問題である。
 - b. 性的不品行を行っていたのが新しいクリスチャンや未熟なクリスチャンであったということはまだ理解できるが、最終的に教会を破滅へと導いたのは、信仰的に成熟したクリスチャンや、コミュニティー全体がこれを間違いだと思わなかったことにある。(5:2, 6)
 - c. パウロは、罪の根源は「すべてのことが私には許されたことです」「食物は腹のためにあり、腹は食物のためにあります」(6:12-13) などの間違った観念にあることを説明している。これらはパウロの言葉ではなく、おそらくコリントの人々の間で言われていたことである。
 - d. 残念なことに今日のクリスチャンもこの箇所を罪の言い訳に用いることがある。しかしこの12節でパウロが引用しているのはクリスチャンが適用すべき御言葉やモットーではなく、未熟な信者たちが基準にしていたキャッチフレーズのようなものである。
 - e. 驚くべきことにこのようなちょっとした格言やモットーが多くの人を迷いへと導いてしまう。現代に生きる私たちも、人生の標語のようなものによって道を外してしまったことがあるだろうか？ 悪い教義や神学は悪い行動へと導いてしまう。
 - f. これらのモットーがクリスチャンを不道德の罪からも解放されたのだ、という思いにさせ、性的不品行を正当化するための偽りの権利のようになってしまった。しかし実際には真理からはかけ離れ、結果的に彼らは性の神聖さを軽んじ、さらに罪の奴隷となり、神のからだを汚すことになった。
2. 不品行を避けなさい。人が犯す罪はすべて、からだの外のもので、からだに対して罪を犯すのです。あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい。(6:18-20)
 - a. 性的不品行から抜け出す実際的なアドバイスは、そこから身を遠ざけることである。これは意志との戦いというよりは物理的にそこから離れることである。箴言の思慮深い御言葉やヨセフとポティファルの妻の話が思い浮かぶ。
 - b. 神学的にはどんな性的不品行にもかかわってはいけないという理由がいくつもある。からだは主のためにあり主はからだのためにある。からだは悪いもので霊は良いものだ、という人もいるが、神は良いものとして男と女を造られ、私たちのからだはイエスがそうになったようにいつの日かよみがえる、と聖書は教えている。性的不品行があると二人は一体となる。私たちのからだは聖霊の宮であり、代価を払って買い取られ、もはや自分自身のものではない。私たちは自分のからだをもって神の栄光を現わすべきである。
 - c. 礼拝には様々な方法、形がある。その一つには私たちがどのようにからだを扱い、用いるか、ということにある。からだを使った行動も礼拝の一部である。